



こんにちは!
菊地葉子です

～道政報告～ No.30

2018年4月号

働き方改善で教職員の健康維持・代替教員欠員解消を

過労死を生まない働き方の改善へ

菊地道議はアクションプランの趣旨について、子どもと向きあう時間の確保の前提として教職員の健康の維持が重要、これをプランの精神とすべきと質問しました

教職員の意見を反映して具体的な対策が必要

菊地道議は何よりも過労死を生みださないことを働き方改革の主眼にすべき、と指摘しながら、教職員団体のアンケート調査を紹介し、教職員の改善要望として①授業や授業準備、個々の生徒指導や教育相談に向きあう時間の確保②時間外勤務解消のため業務量に見合った人員配置、教職員定数の増員、少人数学級の実現などをあげ、このような声をどのように反映していくのか、質問しました。

道教委は、国に対して今後も「定数改善計画」や「校務支援システムの導入に対する財源充実」を要望し、スクールカウンセラーなどの配置促進など環境整備をすすめると答えるのみでした。

北海道教育委員会が行った2016年勤務実態調査では、小学校教諭の23・4%、中学校46・9%、高校35・7%、特別支援学校5・2%が「過労死ライン」に達する週60時間以上の勤務となっています。

2月20日の文教委員会で菊地葉子道議は道教委が提案した学校における働き方改革「北海道アクションプラン」案について質問しました。



代替要員の欠員78名

働き方改革含め職場改善は急務

菊地道議の質問で、産休・病欠代替の配置状況は全道で78名欠員であることがわかりました。

道教委は、教職員採用試験での受験者数の減少などをあげ、教員志望者の減少も一つの要因と答えました。

菊地道議は長時間労働など、教員職場はブラック職場とのイメージが強く、学生間でも教員志望者が少ないとの現職教職員の声を紹介しました。

菊地道議は「働き方改革が教職員の確保に向け急務」と強調しました。



生活相談をうけています

・月曜日～金曜日

・午前10時～午後4時

菊地葉子事務所

小樽市稲穂 1-12-205

ステーションハイツ

☎64-5591



地域おこしの実践を学ぶ

一産炭地振興・エネルギー問題の委員会視察一



工場見学する菊地道議（右端）

1月30日から2月1日にかけて空知、胆振管内で企業・施設を訪問し、地元企業の方々の意見交換等を行いながら北海道のエネルギーの現状と展望について学びました。

空知では北海道の産炭地域総合発展基金を活用して、上砂川町で営業している企業を訪問しました。スライドガラスやカバールガラスなどの顕微鏡用ガラスを製造し、近年各国や韓国等の医療機器メーカー

や病理診断開発企業からの受注増加で好調な業績を上げているマイクロガラス社は企業誘致により上砂川町に工場を構えています。人手不足で一部作業工程のオートメーション化も検討中ですが若い職員が生きいき作業している姿が印象的でした。「正規採用」が Motto とのお話しを伺い、良質な製品が生み出される背景に職員が大切にされる社風があることも学んだ視察でした。

小樽協会病院分娩再開に！！



2015年5月 高橋知事に要望書を渡す道議団
(右から2番目菊地道議)

小樽協会病院は札幌医大からの産科医師派遣が正式に決定し、今年4月以降分娩を再開することになりました。

同病院は道の地域周産期母子医療センターに後志管内で唯一指定されており、2015年7月から医師退職による分娩休止以来、市民や小樽市を含む周辺自治体から再開を求める声が上がっていました。

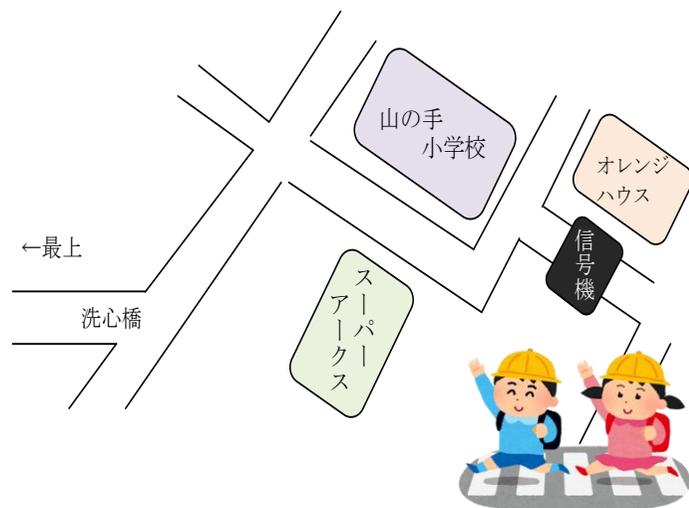
菊地葉子道議は、道議団として知事に申入れ、共産党の道に対する要求活動として毎年とりあげ、委員会質問で小樽市のとりくみや住民運動を紹介し、再開実現のために奮闘してきました。住民の皆さんとともに喜びたいと思います。



山の手小学校前に手押し信号機が実現

今年4月から、小樽市の学校統廃合計画に基づいて、花園5丁目に「山の手小学校」が開設され、これまでの最上・緑・入船の小学校校区から子どもたちが通学します。

このたび入船5丁目の自然食品オレンジハウス前に手押し信号機が設置されました。日本共産党が菊地葉子道議とともに2016年・2017年と北海道に要望をあげ、開校に合わせて設置するよう求めてきたものです。



街頭から道政報告



道政報告する菊地道議

3月24日、稲穂の中心街で街頭から道政を報告しました。

北海道議会庁舎の改築工事で道が、リニア新幹線建設で逮捕者をだした大成建設を代表とするJ&Tと工事請負契約をしようとしている問題をとりあげ、道として契約すべきでないと訴えました。